

2022年7月15日号掲載



各地の話題

加美町

半農半Xの実践 ～農業と公認会計士の二刀流～

令和4年6月に農業経営の合同会社チェルノーゼムを設立し、代表社員を務める^{もりひかる}森耀さん(26)は、公認会計士の資格を持つ異色の経歴だ。

森さんは京都市出身で大学在学中に公認会計士試験に合格し、首都圏で監査法人に勤務していた。

しかし、「課題が大きく難しい分野に挑戦してみたい。農業は後継者問題により法人化、大規模化が求められており、経営知識や計数能力が必要とされる。そこに自分の力を提供できる」と考え、就農を決めた。



何事にも全力で挑む森さんは、令和3年6月に加美町地域おこし協力隊となり就農。小野田^{かのほら}鹿原地区の農事組合法人アグリ^{しんめい}神明で稲作と大豆を担当しながら、同法人からパイプハウスを借りてハウレンソウの栽培に挑戦した。

独立後はハウレンソウとコマツナを約70aで栽培予定であり、農業を続けながら公認会計士の仕事も続ける。

「鹿原地区をのっとなるつもりでやれ！」と同法人代表理事の畠山義信さん(71)から激励を受ける森さん。その姿には活力が満ち溢れている。

【記事提供：加美町農業委員会】